≪≪『根の研究』原稿作成要領・テンプレート≫≫　(2025年3月改定)

校正時に修正が少なくなるので，投稿には必ずこのテンプレートをご利用ください．なお，青字は原稿作成要綱や記載例などで，投稿時には消してください．

１．本テンプレートを必ず使用し，本文，図，表，写真などを1つのファイルとして原稿を作成してください．そして作成したファイルをPDFに変換して原稿をお送りください．ファイル名には，投稿者名を記入してください．論文採択後，掲載のために解像度の良い図，表，写真ファイルを提出していただくことがあります．PDF変換が難しい場合にはご相談ください．

２．以下の要素で原稿を構成して下さい．各箇所における説明も参照してください．

(1) 表題 （原著論文・短報・総説・ミニレビュー・技術ノート・教育・オピニオンは英文併記）

(2) 著者名・所属（原著論文・短報・総説・ミニレビュー・技術ノート・教育・オピニオンは英文併記）

(3) 要旨 （原著論文・短報・総説・ミニレビュー・技術ノート・教育） 日本語600字以内，英語250単語以内．ただし，短報，教育とオピニオンの英語要旨は任意とします．原則として著者の責任で英文添削を受けたものを投稿して下さい．困難な場合には編集委員会にご相談下さい．その他のジャンルについて要旨の有無は任意とします．

(4) キーワード（原著論文・短報・総説・ミニレビュー・技術ノート・教育）：5つまでとし，和文は五十音順，英文はアルファベット順に記載してください．その他のジャンルについてキーワードの有無は任意とします．

(5) 本文：適宜小見出しをつけながら，読みやすいように作成して下さい．読者には様々な分野の方がいますので，専門用語には説明をつけるなどご配慮下さい．原著論文および短報については，緒言・材料と方法・結果・考察（あるいは結果と考察）・謝辞という体裁で作成してください．

(6) 引用文献は下記「引用文献」欄に記載の説明に従ってください．

(7) 図表は図・表ごとに1ページを使用して本文の後に作成してください．本文中の挿入希望位置があれば，テキストを原稿右端に挿入して示してください (下記結果欄の記載例を参照ください)．著作権・版権を侵害するような引用・複写をしないようご注意ください．他の研究者またはご自身の既発表論文をもとにご自身で作図した場合にも，図の説明文中に（Smith et al., (1992) より改変）などの但し書きを加えてください．図表以外でも，版権者の承諾なしに他の文献から複写したものをそのまま掲載することはできませんのでご注意ください．また，図および図中の文字の大きさは，段組１段分または２段分の幅を考慮して作成してください（１ページ最大字数2100字，21字／行×50行／段×2段）．

３．図は，オンライン版のPDFはカラーが使えますが，印刷は原則として白黒ですので，グラフなどは色の違いだけでなく濃淡の差などで凡例の区別がつくようにご配慮下さい．印刷もカラーをご希望の場合には，カラー印刷の経費をご負担いただきます．

４．原稿の分量は，短報・報告・文献紹介・研究室紹介については刷り上がり２ページ以内を目安にし，その他は特に分量を指定しません．

５．その他，詳細については，最新号をご参照ください．

(次ページにテンプレートが続きます．)

カテゴリー：（原著論文，短報，総説，ミニレビュー，技術ノート，教育など）

表題：「根の研究」への投稿原稿テンプレート

Title: Template for authors submitting manuscripts to “Plant Root” （先頭文字のみ大文字）

著者名・所属：

根研太郎\*1)・根系一郎2)・根粒弘2,3)

1）○○大学大学院◇◇研究科

2）○○大学△△学部

3）○○研究センター

（連絡責任者には＊を付けること．所属が複数ある場合のみ番号を付けてください．）

連絡責任者の連絡先

住所　〒･･･(退職された方等で住所が自宅住所の場合は，原則として紙面上では非表示にします．ここでは事務局との連絡手段としてご記入いただきますが、自宅住所である旨ご記載ください．)

Tel：

FAX：

E-mail:

Author’s information:

Taro NEKEN\*1), Ichiro KONKEI2), Hiroshi KONRYU2,3)

1)◇◇ Sciences, University of ○○, 2)Faculty of △△, ○○ University, 3)○○ Research Center

（連絡責任者には\*を付けること．所属が複数ある場合のみ番号を付けてください．）

要旨：本研究では，-----．

600字以内

Abstract: In this study, -----.

英語250単語以内 （原則として著者の責任で英文添削を受けたもの）

キーワード：乾燥ストレス，根系，根粒，ダイズ，有機態窒素．

5つまでとし，和文は五十音順．最後に「．」を付ける．

Keywords: Drought stress, Organic nitrogen, Root nodule, Root system, Soybean.

アルファベット順（先頭文字は大文字．最後に「.」を付ける）

原稿中の句読点は全角の「，」，「．」を用いてください (引用文献を除く)．「()」は半角とし，その外側がそれらや句読点のとき以外は半角のスペースを入れて下さい．℃と％は全角を用いてください．英数字には半角文字を用い，数値と単位の間には半角スペースを入れてください．ただし，℃と％については例外として，数値と単位の間に半角スペースは入れないでください．

算術記号について，+，−，±，<など等式内（例：*n*\_=\_7，*P*\_<\_0.05）では数値などとの間にはスペースを入れてください．アンダーバーは半角スペースを示していますが，原稿では不要です．ただし，/や値を示す際（例：5＜，－3）については数値などとの間に半角スペースは入れないでください．

項目別番号は，1．, 2．, ・・・; (1), (2), ・・・; 1), 2), ・・・; i), ii), ・・・の順です．また，図表の表記は第○図，第○表です．

緒言

植物の根 (その他の地下器官を含む) およびこれを取り巻く環境に関する研究は重要である．

材料と方法

〇〇法を用いて根の測定を行った．

結果（もしくは結果と考察）

根は普通地中にあって，植物体を支え，水や養分を吸収，あるいは貯蔵する器官である (第1図)．

＜図表は，このように引用します．図表の掲載希望位置がある場合は，右端にテキストボックスで表示してください．＞

図1

考察

以上の結果から，根は偉大であることが明らかになった．

謝辞（必要に応じて）

引用文献（引用がある場合のみ）

引用文献のみ（本文中の引用箇所も含む）句読点は半角の「,」，「.」を用いてください．スペースも半角になります．

本文中の引用箇所には (田中・山田,\_1986, Tanaka\_and\_Yamada,\_1986;\_Tanaka\_et\_al.,\_1986;\_ 山田ら,\_1990) といった表記で出版年順に，同一年に複数あるときは筆頭著者名のアルファベット順に文献を指示し，本文の後に「引用文献」として以下のスタイルを参照して，筆頭著者名のアルファベット順に並べて下さい．同一筆頭著者の論文が複数あるときは，第2著者以降のアルファベット順，次いで出版年順に並べて下さい．著者名が完全に一致する論文が同一年に複数あるときは，本文中の引用箇所および引用文献において，年の後ろにアルファベットを付けてください (2020a, 2020b, 2020c等)．アンダーバーは半角スペースを示していますが，原稿では不要です．

＜雑誌＞

雑誌名は省略形にしてください．DOI情報や号数は不要です．また，ページ間は半角ハイフン「-」です．アンダーバーは半角スペースを示していますが，原稿では不要です．

森田茂紀,\_萩沢芳和,\_阿部淳\_1997.\_ファイトマーの数と大きさに着目したイネの根系形成の解析─ポット試験による根量の品種間差の解析例─.\_日作紀\_66:\_195-201.

Becard,\_G.,\_Douds,\_D.D.,\_Pfeffer,\_P.E.\_1992.\_Extensive\_in\_vitro\_hyphal\_growth\_of\_vesicular-arbuscular\_mycorrhizal\_fungi\_in\_the\_presence\_of\_CO2\_and\_flavonols.\_Appl.\_Environ.\_Microbiol.\_58:\_821-825.

＜単行本＞

可知直毅\_1996.\_草本植物における最適な地上部/地下部比.\_山内章編\_植物根系の理想型.\_博友社.\_pp.\_129-148. （出版社の所在地は不要です．）

山内章\_1996.\_植物根系の理想型.\_博友社. （出版社の所在地は不要です．書籍の全引用の場合，ページ数は不要です．）

Nobel,\_P.S.\_1994.\_Root-soil\_responses\_to\_water\_pulses\_in\_dry\_environments.\_In\_Caldwell,\_M.M.,\_Pearcy,\_R.W.\_eds.,\_Exploitation\_of\_Environmental\_Heterogeneity\_by\_Plants.\_Academic\_Press.\_pp.\_285-304. （章を引用の場合，洋書籍タイトルのすべての先頭文字は大文字です．出版社の所在地は不要です．）

Caldwell,\_M.M.,\_Pearcy,\_R.W.\_1994.\_Exploitation\_of\_environmental\_heterogeneity\_by\_plants.\_Academic\_Press. （書籍の全引用の場合，洋書籍タイトルの最初の１文字だけ大文字を用い，他はすべて小文字で，ページ数は不要です．）

データの利用可能性 (必要に応じて; 受理後に記載する)

J-STAGE Data等データリポジトリにおけるデータタイトル

Title of the data in the data repository

https://doi.org/10. (データDOI)

＜図表の貼り付けについて＞

パワーポイントやエクセルなどでテキストボックスなどによる文字を組み入れた写真やグラフなどは，以下の方法でこのテンプレートに直接貼り付けて下さい．

グラフ，写真，文字をグループ化してコピーした後，ツールバーのホーム＞貼り付け＞形式を選択して貼り付け＞図（拡張メタファイル）を指定してください．

表についても同様です．

＜グラフと表について＞

多重検定ではt検定を使用しないでください．

ダンカンの多重範囲検定は過誤の確率が高くなりやすいので使用しないでください．

フィッシャーのLSD法は多重性が考慮されていないため，4群以上では使用しないでください．

反復数を明記してください（*n* ＝ 5など）．

標準偏差か標準誤差かを明記してください．